

## 714異常環境等を起因物とする死傷災害100事例（-2017年）

No	年	月	発生 時	死傷災害事例	年 齢	事 故 の 型	小業種	労働 者規 模
1	2017	11	13～ 14	当社事業場第2牧場洗車場にて、4トンドンプ車を洗車している時に、地面に藻が生えており、滑り易くなっていたため、足元を取られ、転倒し左足首を負傷した。	43	2	70101	10～ 29
2	2017	11	8～9	ドリップバック製造ラインにおいて、製造終了前に当日の原料の再投入を行うために被災者が原料搬送ブロワーを手動で動かし、その後、被災者は原料搬送ブロワーの停止を忘れ（推定）、サークルフィーダー（粉を攪拌して均一にする装置）の清掃作業を行った。清掃作業時に原料搬送ブロワーを停止していなかったため、サークルフィーダー内に窒素が流入した。その為、酸素濃度が低下したサークルフィーダー内に頭を入れて作業を行った被災者は、酸欠状態に陥ったものと推定される。	18	12	10109	100 ～ 299
3	2017	10	11～ 12	場内変電所内に設置の仮設プレハブ小屋で、工事用に設置された仮設プレハブ小屋から出るために、開き戸を開けた際、突風でドアが急激に開き、被災者はドアノブを握ったまま外へ引っ張られ、転倒。その際、右手を捻り骨折に至った。当日朝に台風21号が通過したため、被災時は間欠的に強風が残る状態であった。11～12時の瞬間最大風速12m/s、平均風速7m/s。	47	2	10899	1000 ～ 9999
				日本時間早朝に、コックピット左席に着席し、シートベルトを着用の上、操縦業務を行っていた際に、高度FL350にて巡航中に気象データから予測及び回避不可能かつ強い揺れとの				

4	2017	9	2~3	遭遇。突然の揺れに対する体の保持と同時に速度の変動に対する為のMCP speedの操作、スラストレバー、スピードブレーキの操作、シートベルトサインの点灯の指示の行為を瞬時に行う過程で腰に負担がかかる、その時点で腰に違和感が発生した。	48	12	40103	1000 ~ 9999
5	2017	9	11~ 12	客室巡回中に揺れが発生、急いで着席しようと自席に向かう途中に揺れが大きくなり、客席にもたれかかった際に腰をひねった。	38	19	40103	500 ~ 999
6	2017	8	17~ 18	鉄塔敷地内での草刈出張作業を終え、会社に一旦帰社してから退社した後、体調が悪くなった。	45	11	60101	10~ 29
7	2017	8	18~ 19	乗務中、上昇中は特に違和感はなかったが、降下開始後に機内の前方ギャレーにいたところ、両耳からゴーゴーと音が鳴り、同時に両耳が詰まった。その後、両耳に痛みを感じ、ほぼ聞こえなくなった。鼻をかんだり、顎を動かしたりしてみたが耳は抜けなかった。着陸後、痛みはなくなったが両耳は詰まった状態だった。なお、数日前より風邪の症状があり薬を服用しており、当日は鼻水が少し出ていた。	30	12	40103	500 ~ 999
8	2017	8	12~ 13	乗務中、機内巡回をしている時に、降下開始に伴う気圧の変化により、突然左右の耳が徐々に詰まり出した。到着後も右耳は詰まったままであったが、上昇中の気圧の変化で耳抜きが可能かもしれないとのことで、次便も乗務したが、結局一度は抜けたものの右耳は詰まりが取れず、音も聞こえにくい状態であったため受診したところ、航空性中耳炎と診断された。	29	12	40103	500 ~ 999
				当日は咳と鼻水の症状があり、二日前に診療を受け、処方された薬を服用していた。乗務中、上昇時は右耳に閉塞感があったが耳抜きが出来ていた。巡航中も右耳に閉塞感があ				

9	2017	8	7~8	り、降下開始後、接客中に耳抜きが出来なくなり、両耳が塞がった状態になった。数回バルサルバ法で耳抜きをしては塞がるという状態を繰り返した。到着後は降下中ほどの閉塞感はなく、右耳が詰まっているような違和感があった。二便目も同じ状態で、全体を通して痛みは感じなかった。勤務終了後に受診し、中耳炎の診断を受けた。	27	12	40103	500 ~ 999
10	2017	6	10~ 11	降下中、着陸へ向けて前方ギャレーで片付けをしていた時、両耳が詰まり抜けなくなった。両耳共に痛みがあり、バルサルバ法を試みたが改善されなかった。当日は鼻づまり、耳づまりはなかったため乗務したが、鼻水と咳が出ていた。	33	12	40103	500 ~ 999
11	2017	5	13~ 14	ゲスト4名を連れてダイビングツアーを実施した際、風が強くて潮の流れも速かった。1本目を30分、最大深度38m、1時間半の休憩後、2本目を同じポイントで実施中に力が抜けて意識が遠のく感覚があり、ゲストに浮上合図を出した。安全停止を実施しながら船上へ上ったあと、寒気と震えがあり酸素吸引した。海のコンディションやゲストの耳抜き不調などに不安があった。	24	12	140309	1~9
12	2017	5	12~ 13	乗務中、機内後方通路（座席35Cと35Hの間の通路）にて、カートを使用したドリンクサービス中、突然の縦揺れが発生し、カート上のポットなどを手で押さえたところ、右頸筋から肩に掛けて違和感を感じた。直後に痛みは発症せず、痛み止めを服用しながら乗務を完遂した。その後、しばらくして右頸筋から肩にかけて強い痛みが発症した。	23	19	40103	—
13	2017	4	10~ 11	工場に接岸中のK60番台船右舷側第3タンク内で入水検査作業中、酸素欠乏症になった。	33	12	11501	10~ 29
14	2017	3	12~13	乗務中、着陸に向けた準備をしていたところ両耳がつまり、抜けなくなり、両耳共に強い痛みも発生した。	33	12	40103	500 ~ 999

15	2017	2	17~18	床木工場にて、建設機械の大型バケットでの鋼板切替作業中、高さ調整するのに、ハンマーにて半日以上たたき作業（耳栓は使用）を行っていた。作業終了後にずっと反響音が残った状態になっていると思い、4日間経っても良ならず、耳鳴りがするようになって受診する。	48	90	11209	1~9
16	2016	12	15~16	機内乗務中、客室最後方台所内で、立って先任と到着時刻の確認を行っている時、突然大きな揺れが発生した。身体が浮き上がる感じの揺れがあった。カウンターの手すりを両手で下から急に握ったため、右手首に痛みを発症した。	38	19	40103	1000 ~ 9999
17	2016	10	10~11	客室後方台所で、客室内で旅客の安全確認をし台所に戻った時に、突然の揺れが発生。台所内にいたので、咄嗟に壁についているハンドルを握った。旅客降機後、首の痛みと頭痛を発症した。	44	19	40103	1000 ~ 9999
18	2016	9	11~12	シートベルトサインが消灯し、ファーストクラスサービスが始まる時、客室最前方ドア付近で食事トレーを持って客室へ向かっている時、突然の揺れの際に、食事トレーを持ったまま尻から床に落ちた。食事トレーを持っていたため何もできず、割れたグラスで指をケガした。	41	3	40103	1000 ~ 9999
19	2016	9	15~16	乗務時、機内にて接客業務及び保安業務を遂行している際、飛行機が降下を開始と同時に両耳に耳痛と耳閉塞感を覚えた。降下を続けるにつれ耳痛と耳閉塞感は悪化し、最終的に完全に耳が詰まってしまった。	23	12	40103	300 ~ 499
20	2016	8	21~22	1F駐車場で包装作業を行っていたが熱中症で倒れた。	20	11	80201	50~ 99
21	2016	7	12~13	製鋼工場ORP窒素タンク内で、タンク内部点検作業の事前準備として、タンク内の酸素濃度測定中に、酸欠状態の場所に立ち入り窒息した。	64	12	150102	50~ 99
				製鋼工場のタンク内部点検作業中、タンク内を移動しながら				

22	2016	7	12～ 13	の点検作業を行っていた。酸素濃度が低い状態で2段目フロアから3段目フロアに移動の際に、突然倒れた。	64	12	170101	30～ 49
23	2016	7	15～ 16	外気温が30度を超える中、自転車にて配達作業を行っていた際、午後の配達中、筋肉痙攣と肉体疲労で歩けなくなった。	59	11	110101	100 ～ 299
24	2016	6	20～ 21	太平洋上空、航空機の操縦中に降下に伴う気圧の変化で急性副鼻腔炎となった。	33	12	40103	100 ～ 299
25	2016	6	13～ 14	3ダイブ目の潜降の際、耳ぬきをした所、目まいがあり、ダイビングはそのまま行ったが、浮上後体調不良を感じた。	21	12	140309	1～9
26	2016	6	13～ 14	アルゴンガスを使用してパイプの溶接作業をしていた。パイプの入槽径は423mm長さ2285mmの細長い物で、内部よりアルゴンガスでバックシールを行っていたが、換気が充分なされていないパイプ内に被災者がうつ伏せ状態で倒れていた。	28	12	11301	100 ～ 299
27	2016	6	2～3	土石流でこわれた山小屋の修理、周辺の雪かき、土石の排除等を連日行っていた。気がつかないうちに無理をして、高山病の症状が出た。	37	12	140101	1～9
28	2016	6	9～ 10	工場、水処理室にて、手洗い用薬液タンクに薬液補充時、次亜塩素酸ナトリウムを希塩酸用タンクに誤って補充し、塩素ガスが発生、これを吸引し、呼吸不全を起こした。	45	12	10106	10～ 29
29	2016	4	23～ 24	飛行降下中、耳が気圧の変化により詰まった為、耳抜きをゆっくりとしたところ、バリッという音がし、その後も耳が詰まったり抜けたりを繰り返した。	30	12	40103	500 ～ 999
30	2016	3	15～ 16	外壁工事を行っているビルの受付ロビーにて受付業務を遂行中、普段閉まっている自動ドアが開いたり閉まったりするようになり、工事による粉じんやほこりが室内に入ってきた。そのうち視界が急に悪くなり、急激に咳き込んで呼吸がしづ	34	12	170209	100 ～ 299

				らくなり、涙も出てきた。				
31	2015	12	10～ 11	農場で入雛作業を行っていたが、作業中に気分の悪さを訴えた。	53	12	70101	100 ～ 299
32	2015	11	16～ 17	マンションの専有付中内でリフォーム工事中、マンションの床モルタルを解体していた。室内に発電機を設置して削岩機で床モルタルを解体中、近隣への騒音粉じん飛散防止の為作業中窓を閉めていたため、発電機の排気により、一酸化炭素中毒となった。	24	12	30202	1～9
33	2015	11	8～9	機内サービス中に飛行降下開始数分後に、右眉上あたりの額が痛みだした。	37	12	40103	300 ～ 499
34	2015	10	20～ 21	機内前方ギャレイ付近で、到着前のギャレイの片付け中に飛行降下開始。その後気圧の変化により、耳がつまって抜けなくなり痛みが発生した。	37	12	40103	300 ～ 499
35	2015	8	16～ 17	航空機降下時、まだサービスをしていたが徐々に右耳が詰まり、そのうちにかかなりの激痛を伴い、耳抜き等をしてても抜けなくなった。	52	12	40103	300 ～ 499
36	2015	8	16～ 17	営業の途中、疲れたと思い駅のベンチで休んでいたが、全身にこわばりを感じるようになった。	22	11	80109	1～9
37	2015	3	14～ 15	微粉炭運搬作業において、タンク内の圧抜きを行い、ハッチを開け、積込準備を行っていた。その時タンク内に落ちたパッキンをハーケンを使って取ろうとタンク内を覗き込んだ時、タンク内に残留していた窒素ガスにより酸素欠乏となった。	46	12	40301	100 ～ 299
38	2015	3	9～ 10	機内後方ギャレイでミールを食べていたところ両耳が一気に詰まった。地上に着いても耳は抜けず、病院に行ったところ	21	12	40103	500 ～

				航空性中耳炎と診断された。				999
39	2014	12	17～ 18	造船所内ドック南側の船舶の右舷サイドシェルの工事孔閉鎖工事及びベトナム人実習生指導に従事していた。17時頃、工事孔閉鎖工事の実作業をしていたベトナム人実習生の様子を見に行った。アッパーデッキから入り二段目のマンホールから様子を見ると外板にもたれて眠っているように見えたので声を掛けたが返答がない為、近くに行ったところその後の記憶が無い。二酸化炭素が溜まっていた為に酸欠状態になり倒れたと推定される。	39	12	11501	10～ 29
40	2014	12	8～9	作業場で暖をとる際に使用していた焚き木の入ったバケツを、狭小なコントロール室内に持ち込み、採集日誌等の記載をしていたところ、無意識のうちに一酸化炭素中毒となり、意識朦朧としているところを発見された。	54	12	11002	50～ 99
41	2014	4	17～ 18	室内の作業場にて、カンプレート（鉄製）に付着した汚れを鉄ハンマーで叩いて落とす作業を繰り返し行い、作業終了の報告を電話連絡したところ左耳が聞きずらくなっていることに気づいた。明日になってもその状態が続いていたので病院で診察を受け左音響外傷と診断された。	58	90	170101	10～ 29
42	2014	2	8～9	店舗に自転車で出勤後、自転車置き場から従業員入口に向かっていたところ、前日の雪で凍っていた地面で滑って転倒し、右手と右足を打った。	63	2	80209	50～ 99
43	2013	11	14～ 15	旅客飛行機に乗務中、降下中、耳の詰まりと痛みを感じた。	23	12	40103	300 ～ 499
44	2013	11	11～ 12	車庫の天井をベビーサンダーを用いてサビを削り落とす下地調整作業を行っていたところ、耳が聞こえづらくなった。	22	90	30209	1～9
45	2013	8	18～	通信用鉄塔の作業現場にて、報告用写真の撮影及び計測作業を行っていた。作業終了後、宿泊施設に戻り、施設内でけい	49	11	30301	30～



56	2012	11	3~4	自家用駐車場から移動中、雪に足を取られ転倒した際、脇腹を強打し、負傷した。	53	2	40201	500 ~ 999
57	2012	9	19~ 20	高度降下中、航空機内後方ギャレーにて、片付け作業中、高度が下がったことにより、航空性中耳炎を発症した。	23	90	40103	300 ~ 499
58	2012	8	12~ 13	トイレ下部の配管用ピットのコンクリート打設後、開口部内のぞき穴からピット内に入り、負傷した。	38	12	30201	10~ 29
59	2012	8	15~ 16	舗装工事でレーキマンとして作業中、猛暑に加え舗装作業な為、熱中症により、めまいがして、体調を悪くした。	49	11	30109	1~9
60	2012	8	11~ 12	排水路の草刈り除草中、具合を悪くした。	32	90	30199	10~ 29
61	2012	8	14~ 15	天井ボード下地処理作業をしていたところ、気分が悪くなった。	46	11	30201	1~9
62	2012	8	12~ 13	階段で掃き掃除中、気温が高い中での作業であった為、熱中症を発症し、意識が朦朧とし、転倒。頭部を裂傷し、出血した。	66	11	150101	100 ~ 299
63	2012	6	11~ 12	潜水士（2名）により、砂流出防止シートを敷設している際（水深6m程度）、1名の潜水士が右耳に違和感を感じた。昼休みに耳掃除をし、午後から同じ作業をしていたが、めまい及び吐き気に襲われ、作業を中止して潜水士船に戻り休養していたが、症状が回復しなかったため、受診した。	23	12	30111	30~ 49
64	2012	5	9~ 10	水深21m付近にて、ブラケット取付作業中、3分かけて浮上し、浮上を完了した後、タラップを上った際、胸と腰に違和感を感じ、手、足がしびれた。	48	12	30209	30~ 49
65	2012	5	11~ 12	柱アンカーボルト調整作業中、突然雷鳴と雨が降り出し、退避指示により、作業場所から詰所への避難経路を通行中、落	43	13	30201	1~9

				雷にあった。				
66	2012	4	16～ 17	会議をボイスレコーダーで録音したMP3音源をパソコンで再生し、イヤホンで聴き、文章化する作業（テープおこし）を、長時間行った為、作業終了時から耳がふさがった感じになった。	36	12	170209	1～9
67	2012	4	20～ 21	配達を終え、台車を押しながら歩道を通行していたところ、ビル街の突風に煽られ、転倒。地面にわき腹を打ちつけ、打撲した。	62	2	40301	30～ 49
68	2012	2	8～9	強い風雨の中、出勤のため駐車場から建物へ向かう階段（20段）を中程まで登った際、突風にあおられてバランスを崩し、階段下までよろけながら落ちたところで倒れ、止まっていた車のバンパーに肩を強打した。起き上がり、再び階段を3段程登ったところで、今度は逆向きの突風にあおられ土手側に倒れた。	57	5	150102	1～9
69	2011	12	12～ 13	水深12～13mで海中漁に出て潜水作業をした。作業中に右肩に違和感を感じたが1時間程度そのまま潜水作業を続けた。その後、肩の痛みが直らないので、後日、病院を受診した。	52	90	70201	1～9
70	2011	12	17～ 18	A金属工場内C岸壁において船舶の水中部外板検査を行なった。潜水作業終了後、両腕に減圧症とおもわれるだるさを伴った違和感が発生した。	27	12	30111	50～ 99
71	2011	12	6～7	クラブハウスからコース売店へ移動中、路面凍結していたことに気づかず滑って転倒した。その際臀部と右手を強打。	62	2	140201	10～ 29
72	2011	8	10～ 11	測量業務の移動中、左足ふくらはぎを伸ばしてしまい足を痛めた。痛みを我慢しながら仕事を続けていたが、痛みが強くなり動けなくなったため翌日受診した。	40	19	60209	10～ 29
				ビル屋内の共用部清掃とゴミ置場のゴミ搬出作業を行ってい				

73	2011	8	10～ 11	る途中に具合が悪くなったが、最後まで作業を終え自宅へ帰宅。その後横になっていたが体調が回復しない為、翌日救急病院へ行き治療を受けた。1週間同病院で治療したが、体調が良くならない為、医師の勧めで大学病院へ転院した。	66	11	150101	～ 999
74	2011	5	16～ 17	当社ライブハウスA店にて100デシベル以上の音量環境の中、長時間にわたり音響、照明操作業務に携わっていたところ、眩暈と耳鳴りの症状を感じ、それ以降右耳で高音域の音声が聞き取れない状況になった。	28	90	100109	1～9
75	2011	4	9～ 10	A小学校給食室内の休憩室で調理手順や献立についてミーティング中、調理室より出火。職員（労働者）が避難する途中煙と防火シャッターに阻まれた。他の学校職員が防火シャッターを外側（廊下側）から開けて救出するまで数分間、職員（労働者）は高温の煙の中に閉じ込められた。	45	12	120109	100 ～ 299
76	2011	3	12～ 13	航空機（A便）で乗務中、5000Mより降下に入った際、左耳に違和感を感じ、耳の詰まり耳抜きができなくなった。	28	12	40103	50～ 99
77	2011	3	10～ 11	改装工事中のトイレの床面を破碎中に、その反響音にて耳に異和感を感じて、後日耳鼻科にて検診した所、突発性難聴と診断された。	46	12	30202	1～9
78	2011	3	14～ 15	営業オフィスへ帰社途中、突風にあおられ転倒し、骨折した。	63	2	90103	1000 ～ 9999
79	2011	1	9～ 10	洗車機の中の車を自分が運転する営業車と入れ替えるため、洗車機に近づいたところ、足を滑らせ転倒し、その際、後頭部を地面に強打した。	66	2	40201	50～ 99
80	2011	1	9～ 10	被災者は、現場で出た木くず等のゴミを町にある処分場へ持っていった。道路が凍結しているようだったため、トラックを降り、様子を見に行き戻ろうとしたところ、処分場入口の坂道ですべり、後向きに転倒し、尻もちをつくと同時に右	51	2	30199	1～9

				ひじを打ち、骨折した。				
81	2011	1	4～5	夜間の圧気作業終了後、所定の減圧を行ったが股関節に痛みを訴えたため、再圧治療を行い、痛みがなくなったため帰宅した。その後、地上での作業に従事していた。	51	12	30102	30～ 49
82	2011	1	13～ 14	個人邸新築工事現場において、足場の上に乗って、足場に降り積もった雪を除去する作業をしようとして、道具を取りに2階から1階に続く足場の階段を降りようとしたところ、階段の上に積もった雪に足を滑らせそのまま転倒し、右肘を階段で強打し負傷した。	49	2	30202	1～9
83	2011	1	8～9	敷地内トイレに向う際、積もった雪のため地面が凍っていたのに気づかず足を滑らし転倒、負傷した。	63	2	30202	1～9
84	2011	1	12～ 13	昼休憩時トイレに行き休憩室に向う時、雪に足をすべらせ転倒、右手を負傷した。	55	2	10104	10～ 29
85	2011	1	4～5	新聞配達の時、いつもはポストに入れるが、元旦は新聞の量が多く厚かったので玄関先まで持っていった。しかし、当日は雪が少し積っていて段差があるのを気付かず足をとられ右足くるぶし付近を強打した。	72	3	80205	10～ 29
86	2010	12	0～1	被災地のS店に清掃作業の為、訪問し、駐車場に車両を駐車し、降車する際、舗装路面が凍結していて、足を滑らせ受傷した。	43	2	150101	10～ 29
87	2010	10	2～3	施設内機械室の地下ピット内で漏水の調査を依頼業者と調査中に意識がなくなり、救急車で搬送された。	65	11	130301	30～ 49
88	2010	9	14～ 15	A市BのC公園内菖蒲園にて除草作業をしていた。主にしゃがんだ状態で手作業にて雑草を駆除していた。日向で、長袖長ズボンの作業着姿で白色のヘルメットを着用していた。当日の天気は晴れ、気温は、35.4度、湿度47%西の風風速4.5m（気象庁調べ）であった。午後2時30分、被災	56	11	170209	100 ～

				者より手足がしびれ身体が重くめまいがするとの訴えがあった。熱中症と判断し、すぐに日陰で応急処置をした。やや体調は快善したが、作業終了後、帰所途中の車内にて嘔吐したので病院を受診した。					299
89	2010	9	15～ 16	A市B町C保養所別荘D邸の改装工事現場において、2階の屋根の取り付け作業中、目まいと嘔吐があり体がだるくなったため、仕事を中断し同僚に付き添われ自宅に帰り、休養していた。週末で病院が休みだったため様子を見ていたが、6日になり立つこともできなくなったため、救急車で病院に運ばれ、そのまま入院となる。	65	11	30202	1～9	
90	2010	9	15～ 16	9月10日午前9時30分頃A作業所で今後使用する型枠材をデスクライダーを使用し加工していたら突然耳鳴りがし音が聞こえなくなった。病院に行った。	61	12	30209	1～9	
91	2010	8	12～ 13	A沖合い約900m水深50mの場所で作業船の係留ロープの取付作業時潜水ポンベにより潜水作業を行った後減圧を行い作業船に戻り次回潜水者との引継ぎを終え、休憩に入ったところ被災者が意識を失った。	61	12	30111	10～ 29	
92	2010	6	16～ 17	湾口防波堤（北堤）の沖側に洗堀防止マットを敷設する潜水作業（水深－26m）を行った。潜水作業終了後、交代した潜水士の連絡員を行い、本日の作業を終了して休憩に入った。その後、打合せ（帰宅）のため岸壁を上がる際、足に力が入らなくなり異常を感じた。	48	12	30111	10～ 29	
93	2010	4	11～ 12	10番ホールのティーランドから約200Y先のカート道路脇のマンホール付近の傾斜地でスタート直後、OBボールを捜しに左側法面を登り、カート道路に戻る際に残雪で滑り左足のひざ内側の靭帯を負傷した。	50	2	140301	50～ 99	
94	2010	2	20～ 21	航空機において操縦業務中降下による気圧上昇により航空性 中耳炎の発症。H22.3.16	33	12	40103	不明	

95	2010	2	9～ 10	I 町内の現場においてスレート材の壁を電動丸ノコで切断作業中切断の騒音で耳の聞こえ方に違和感を感じながらその日の作業を続ける。翌日（2/5）やはり違和感があるので夕方受診した結果右耳を負傷していた事が判明した。	33	90	30209	0～9
96	2010	1	20～ 21	視覚障害者のガイドしてライブハウスAでコンサート中利用者の方が最前列で3時間程演奏を聞かれる間、トイレや移動の時、安全に誘導する為に付き添っていた。コンサート終了後、帰宅夜頭痛と耳鳴りがひどく翌日病院に行く	20	90	130201	10～ 29
97	2010	1	14～ 15	積雪60cmの中、A町をバイクと徒歩で配達を行っていたところ、寒さと冷えで手足の感覚がだんだんなくなり、バイクを停めた状態で意識がなくなった。近所の方の手配により救急車で病院に運ばれた。	62	11	110101	300 ～ 499
98	2009	12	15～ 16	工場とは別棟の休憩室に入るため、休憩室のドアを開けようとした所、強風が吹いており、ドアを掴んだ状態でドアが激しく開き、ドアに押されるように体が浮き上り転倒した。その際、右腕（手首から肘）を地面のコンクリート又は鉄の柱にぶつけた。同時に腰、足を転倒の際に痛み、足を骨折した。	60	2	10102	10～ 29
99	2009	8	15～ 16	工場において、被引車の溶接作業を終了し、溶接から出たカスをチデルで取り除く作業中の音が大きく、作業後に耳の聞こえが悪くなった。	24	90	40301	100 ～ 299
100	2009	8	17～ 18	炎天下、朝から夕方まで緑地帯で除草作業後、体調不良となり、受診したところ、熱中症と診断された。	62	90	60101	1～9

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.html](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html)(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各起因物における死傷災害100事例（-2017年）](#)に戻る。